

学校教育目標	やさしく かしく 元気よく
目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の豊かな心を培い、夢や希望を育む学校 ・教職員がもち味を生かし、児童とともに授業や教育活動を創り出していく学校 ・家庭や地域社会とともに歩み、協働し合う開かれた学校

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 情報端末を活用した「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体的な充実による探究的な学びの実現 2 特別支援・教育相談体制の充実、かかわり合う活動の充実による幸せを実感できる教育の実現 3 学校運営協議会や周年行事などを通して、大人と児童が協働できる取組の充実 4 教師と児童がともに創り上げていく安全・安心な学習環境整備 5 一人ひとりがもち味を発揮し、協働しながら楽しい授業や活動を創り出せる教職員集団の育成
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

※重点目標は6つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

		学 校 自 己 評 価				学校運営協議会による評価	
		年 度 目 標		年 度 評 価		実施日 令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【現状】 ○国語・算数ともに、学習状況調査結果では、国や市平均とほぼ平均値が同じ状況である。 ○「学ぶことが楽しい」と回答している児童の割合は、R7:93%であった。 【課題】 ・集中力の維持できない児童がおり、学習への意欲を高めるよう ICT 等を活用し個別最適な学びを推進する必要がある。 ・日常の授業において、基礎的基本的学力の定着を図る必要がある。	・学ぶ楽しさを実感し、児童が主体的に学ぶ授業の展開	①ICTを活用し、学び方の選択など「個別最適な学び」を取り入れ、意欲を高め、自走に寄り添う指導を行う。 ②全クラスで「協働的な学び」を単元で一回以上は取り入れ学びを深める。	①学校評価「進んで学習に取り組んでいる。」児童とてもそう思うが昨年度以上であったか。(R7:42%) ②教職員アンケート「児童の学びに伴走することができた」肯定80%以上			
		・基礎的・基本的な学力の定着と体験活動によるリアルな学び	①授業中に、振り返りやスモールステップの習熟の時間を入れ、基礎的・基本的な学力の定着を図るようにする。 ②実物に触れる、地域の方に来てもらうなど、リアルな体験活動を多くの教科で取り入れ、実感を伴う学習を行う。	①学校評価「確かな学力の定着が図られている」保護者肯定昨年度以上であったか(R7:85%) ②教職員アンケート「実物に触れる、地域の方に来てもらうなどのリアルな体験活動を取り入れた。」肯定80%以上			
2	【現状】 ○心と生活のアンケート結果から、多くの児童が不安なく楽しく学校生活を送れている。 ○先生は話しをきいてくれたり、見守ってくれたりしている。R7:97% 【課題】 ・「担任や他の教職員は、子供の話を聞いてくれる」というアンケートで、87%と保護者アンケートが児童アンケートより低め。 ・アンケートなどにより、人間関係等に不安を感じている児童がいる。	・安心スペースの整備及びかかわり合いを大切に活動の充実	①教育支援センター「Solaる一む」に教職員が常駐し、児童の学習や生活課題に寄り添い、教室復帰を支援する。 ②各学級においてかかわり合いを大切に学習や活動、認め合う活動等により、人間関係を豊かにする。	①「Solaる一む」や他の安心スペースをいつでも児童が利用できるように整備することができたか。 ②教職員アンケート「かかわり合い、認め合いを大切に活動」肯定8割以上			
		・組織的に、迅速・丁寧に対応できる教育相談体制の充実	①教育相談日を増設し、毎週金曜日とし、保護者・児童の不安を迅速に集め、組織的な対応へつなげる。 ②スクールダッシュボードを活用し、不安を抱える児童を把握し支援する。SCやSSW、関係機関等との連携を図る。	①学校評価「先生は話を聞き、見守ってくれる」肯定回答が昨年度以上(児童R7:97%保護者87%) ②毎週各学年でマイナス回答や気になる児童を学年で報告し、共有及び対応ができたか。			
3	【現状】 ○学校運営協議会では、充実した熟議を行い、家庭・地域と連携して協働して課題に対して、解決していこうとする共通理解が図られている。 【課題】 ・児童が、学校運営協議会に参加し、学校での取組などを報告できるようにしていく。 ・50周年事業を通し、学校の伝統や文化を知り、地域や学校への愛着心を養っていく。	・家庭・地域と連携し、児童の主体性につながる取組	①児童の様子を、学校だよりや公開日などで広く見ていただき、家庭などで児童へ励ましの声掛けをしてもらう。 ②地域行事を積極的に児童に周知したり、授業等に地域人材を活用したりして、学校と地域との連携を強化する。	①学校評価「学校はPTA・地域と連携を図っている。」の項目が高まったか。(保護者:R7:82%) ②市学習状況調査「今住んでいる地域の行事に参加している」の肯定的回答が昨年度を上回ったか。(R7:97%)			
		・学校運営協議会・創立50周年記念行事に向けた取組の実施	①学校運営協議会に児童が参加し、学校での取組などについて意見交換する。 ②周年行事に向け実行委員と協力しながら、計画を立て実施する。児童主体の活動により学校や郷土を愛する心情を育む。	①学校運営協議会委員会に参加した方から、学校での取組について意見をいただき、具体的な取組ができたか。 ②市学習状況調査「地域や社会をよくするために何かしてみたい」の肯定的回答が昨年度以上か。(R7:86%)			
4	【現状】 ○開校50周年を迎え、学校全体の施設の老朽化が目立つ。教室の床、プールのトイレ等の早急な対応が必要である。 【課題】 ・学校単位で修繕が難しいところは教育委員会と連携する。 ・教職員による安全点検だけでなく、児童自らが危険を回避できるような、安全に対する活動を行っていく必要がある。	・充実した学習を進めるための安心・安全な環境の整備	①月一回の安全点検を実施し、不備のあった箇所を、1週間以内に改善する。 ②安全にかかわる環境整備について、月に複数回数敷地内を巡回し、古木等の危険箇所がないか点検する。	①学校評価「毎日安心して学校生活を送っている」の肯定的回答が昨年度を上回ったか。(R7:児童93%保護者92%) ②遊具や安全環境に係る施設設備について月に複数回点検を行う。			
		・教師と児童がともに取り組む安全教育の推進	①児童の安全委員により、安全に対する取組を企画し、実施する。 ②teamsの緊急連絡チャットなどを利用して、緊急の修繕箇所等を把握し、迅速に対応できるようにする。	①学校評価「学校の決まりを守り生活している」のとてもそう思うが、昨年度を上回っているか。(R7:児童49%) ②安全環境・事故等に関してチャットを活用し、毎日確認している。			
5	【現状】 ○各教科において、学習者用タブレットを活用し、授業実践を行う教職員が増えてきている。 ○キャリア段階に関係なく、教職員同士が協力して、課題解決に当たっている。 【課題】 ・ICT研修の機会を設け、さらなる効果的な活用や活用の幅を広げ、専門性を向上させていく。 ・若手の教職員を、中堅やベテラン教員が支え、協働的で学び合う教職員集団の育成。	・ICT教育推進や授業力向上のための研修の充実	①授業を担当する教員が、少なくとも一人2回は授業を公開し、各教員が3回以上は参観し学ぶ機会を作る。 ②学校課題研修・ICT研修を中心に、互いに学び合う研修を充実する。	①すべての教職員が、探究的な学びに向けた授業公開を年2回実践できたか。 ②学校評価「子どもが活躍する授業展開を工夫している」とてもそう思うが昨年度を上回ったか。(R7:教職員35%)			
		・協働的な職場環境と教職員の健康管理	①高学年・中学年において教科担任制を取り入れ、教材研究の時間を縮減し、質の高い授業を展開する。 ②業務改善や協働的な働きを推進し、皆が働きやすい職場環境の維持向上を図る。	①学校評価「学校評価「仕事充実し、働き甲斐がある」肯定昨年度を上回ったか。(R7:90%) ②本校教職員の年間平均の時間外在校時間平均33時間以内(R7:33.6時間)であったか。			

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達や心をサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

学校運営協議会からの意見・要望・評価等

